

2019年11月25日(月)開催、恵寿総合病院の展示会を「朝日新聞」七尾支局が取材。

金沢駅 車いすの旅

桶屋さん 七尾で写真展

七尾市青山町の障害者支援施設「青山彩光苑」に入所する桶屋善一さん(65)が、JR金沢駅周辺で撮影した写真などを集めた写真展「車いす目線から巡る金沢の旅」が、恵寿総合病院(七尾市富岡町)で開かれている。



写真展の会場を訪れた桶屋善一さん(七尾市富岡町)

周辺調査「安心して外出できる」



金沢に向かう列車に乗り込む桶屋善一さん(青山彩光苑提供)

桶屋さんは宝達志水町出身。生後間もなく、脳性小児まひになり、手足や言語に障害がある。約10年前から電動車いすで七尾市内を巡り、駅や観光地のバリアフリーの現状などを撮影してきた。移動の際は車いすにデジタルカメラを固定し、簡単にシャッターを押せるように工夫。手が届かない位置や角度から撮る場合は、同行する介助者が代わりに撮影するという。

金沢を訪れたのは昨年5月。「新幹線にぎわう金沢駅周辺のバリアフリーの現状を伝えたい」と撮影を

思い立ったという。

ボランティアの介助者、案内進さん(72)と一緒にJR七尾駅を出発。列車でJR金沢駅まで移動後、1日掛けて駅周辺を中心に撮影して回った。メジャーも持参し、列車の乗車口の段差や駅構内にある多目的トイレの入り口幅や便座の高さなども調査した。

会場では、桶屋さんが駅員の介助も得ながら列車に乗り込む様子や金沢駅構内の多目的トイレ、券売機などを撮影した写真が並ぶ。今回の調査結果を盛り込み、駅周辺や構内のバリアフリーの現状をまとめた冊子(A4判、88頁)も作成。会場写真とともに冊子の内容もパネルで紹介している。車いすの利用者が防げた際の参考になることができる。

桶屋さんは「車いす利用者も交通機関を使って外出できることを伝えたい。駅の施設が「安心して使える」ことを知るきっかけになれば」と話している。

写真展は12月2日まで。入場無料。冊子は希望があれば1部1600円(税込)で販売している。問い合わせは青山彩光苑(0767・57・3309)。(井嶋克弘)

2019年11月28日(木) 朝日新聞朝刊